



## ごんの秋まつり

事業分野	観光振興	協働の形態	事業共催
実施主体	行政	市民経済部観光課	
	協働相手	矢勝川の彼岸花を守る会（改称前：矢勝川の環境を守る会）、NPO 法人りんりん など	
実施期間	平成 20 年度から	過去 3 年間 平均予算額	4, 9 0 2 千円
協働のゴール	矢勝川の彼岸花の保全		
ポイント	矢勝川の彼岸花を守る会の活動:いまや 1 3 万人のお客さんが観に訪れるようになった矢勝川の彼岸花を植え、守る活動という社会貢献度の高さ。		
◆協働に至る経緯と背景			
<p>矢勝川の彼岸花を守る会：平成 2 年のこと、生前の南吉を知る一人の地元の住人が、ある壮大な計画を思い立ちます。“南吉がよく散策した矢勝川の堤をキャンパスに、彼岸花で真っ赤な風景を描こう。”ただ一人で草を刈り、球根を植えるその姿に、一人また一人と手伝う人が現れ、大きく活動が広がっている。平成 2 0 年度には童話の村秋まつり（現在のごんの秋まつり）が始まり、現在では秋の彼岸（9 月下旬）になると、東西約 1. 5km にわたって 3 0 0 万本もの彼岸花が咲くようになった。</p>			
◆事業内容			
<p>矢勝川堤に咲き誇る 3 0 0 万本の彼岸花を中心に観光客を誘客するため、ごんの秋まつりを開催する。（矢勝川の彼岸花を守る会の活動：ほぼ一年中、矢勝川沿いの堤防全部と周辺の草刈り、球根の株分けなどを毎日行って、毎週月曜から金曜の午前中、土日祝日と年末年始やお盆以外は休みなく活動をしている。）</p>			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんの秋まつりの開催に係る企画、調整、広報、当日対応</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間にわたる矢勝川堤の彼岸花の維持及び拡大（草刈り、球根植え）</li> <li>・ごんの秋まつり当日における来場者対応、実行委員会への参加</li> </ul>		
◆協働の成果			
<p>「ごんぎつねの舞台となった矢勝川周辺には、童話の世界を感じさせる里山風景が広がり、秋の彼岸になると 300 万本もの彼岸花が咲き誇る。</p>			
			
◆協働の課題・展望			
<p>矢勝川の彼岸花を守る会：構成するメンバーは年配の方が多いため、次世代に向けてメンバーを増やしていく必要がある。</p>			


## 第八回はんだ山車まつり

事業分野	観光振興	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	市民経済部観光課	
	協働相手	半田市民、半田青年会議所、半田商工会議所青年部、山車組など（43企業・団体・組合・医療機関）	
実施期間	平成29年度	過去3年間 平均予算額	補助金100,000千円
協働のゴール	第八回はんだ山車まつりの開催。		
ポイント	市民の誇りである山車による知多地域最大のイベントに携わる。		
◆協働に至る経緯と背景			
半田青年会議所が発起人となり開催された「第一回はんだ山車まつり」以降、市と各種市民団体の協働により開催されてきた。			
◆事業内容			
市、上記協働相手を中心メンバーとした第八回はんだ山車まつり実行委員会を組織し5年に一度、31輦の山車を一堂に揃える「はんだ山車まつり」を開催することで、本市の誇る山車文化の発信・継承と、本市への誘客効果及び経済効果を図る。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会の参画</li> <li>・補助金の支出</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会の参画</li> <li>・イベント開催に要する各種業務の従事（ボランティアを含む）</li> </ul>		
◆協働の成果			
<p>魅力あるイベント創出のため、民間のアイデアや実行委員のつながりを活用した企画を開催することができた。</p> <p>また当日は案内やゴミ拾い等、大量の人員を要するが、市民ボランティアが中心となって活躍し、イベント来訪者に対しおもてなし体制充実を図ることができた。</p>			
◆協働の課題・展望			
第九回はんだ山車まつりは、おもてなし体制の更なる充実や警備体制の強化等、協働によるイベント内容の磨き上げが求められている。これまでの協働で培われてきた経験と協力関係を最大限活用し、イベントの開催に向けて必要な準備を行いたい。			


## 南吉さんの蛍まつり

事業分野	観光振興	協働の形態	事業共催
実施主体	行政	市民経済部観光課	
	協働相手	半田中央印刷株式会社 NPO法人ごんのふるさとネットワーク	
実施期間	平成 29 年度から	過去 3 年間 平均予算額	247 千円
協働のゴール	新美南吉記念館の湿地帯で蛍イベントを開催し、観光客の誘客を図る。		
ポイント	NPO法人や企業と一体となって力を合わせて実施できるイベント		
◆協働に至る経緯と背景			
<p>年間にわたり蛍を飼育する土本氏が新美南吉記念館で蛍のイベントを開催できないかNPO法人ごんのふるさとネットワークに提案した。始めは、社会貢献活動の一環として半田中央印刷株式会社主体で第1回目の南吉さんの蛍まつりが行われ、その後、半田市観光協会と半田市が加わり、一体となって実施するようになった。また、南吉は「木の祭り」など蛍にちなんだ作品を数多く書いている。</p>			
◆事業内容			
新美南吉記念館の湿地帯で蛍イベントを開催し、観光客の誘客を図る。			
◆役割分担			
行政	・ イベントの企画・運営		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベント内コンテンツの企画・運営</li> <li>・ 駐車場警備・案内等の従事</li> <li>・ 駐車場の貸し出し</li> </ul>		
◆協働の成果			
<p>市だけでなく地域企業も巻き込んでイベントを実施することで、2日間で3,600人のお客さんに来ていただけるほどのイベントとなり、半田市への観光客の誘客となった。</p>			
◆協働の課題・展望			
<p>南吉さんの蛍まつりを開催するにあたり、駐車場のキャパシティが十分でない点が課題であり、現在も実施している周辺のお店への駐車場の貸し出し協力をさらに拡げていく必要がある。</p>			


## 半田赤レンガ建物 企画展

事業分野	観光振興	協働の形態	事業共催
実施主体	行政	市民経済部観光課	
	協働相手	一般社団法人 赤煉瓦倶楽部半田	
実施期間	平成 28 年度から	過去 3 年間 平均予算額	—
協働のゴール	半田赤レンガ建物の魅力向上、保存・有効活用		
ポイント	歴史的建造物である半田赤レンガ建物の魅力を知り発信できる。		
◆協働に至る経緯と背景			
赤煉瓦倶楽部半田は、半田赤レンガ建物の利活用を調査研究し魅力的なまちづくりを進める市民グループであり、長年半田赤レンガ建物の保存・活用のため活動しており、建物の常時公開以降、半田赤レンガ建物の魅力を発信するため、指定管理者との共催により企画展を開催している。			
◆事業内容			
半田赤レンガ建物やカプトビールの歴史に関する企画展を開催し、赤レンガの歴史に触れるとともに観光客の誘客を図る。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展示室の提供</li> <li>・企画展のPR</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展の開催</li> </ul>		
◆協働の成果			
赤煉瓦倶楽部半田の長年の調査・研究により蓄積された研究成果を活用して、市や指定管理者では発信できない半田赤レンガ建物の魅力を深掘りした企画展を実施することができた。			
◆協働の課題・展望			
半田赤レンガ建物の歴史や文化の推進について、赤煉瓦倶楽部半田だけに任せるのではなく、市側も専門職を配置して、共に半田赤レンガ建物の保存、魅力の発信できるようにしていかななくてはならない。			

## 半田運河 Canal Night

事業分野	観光振興	協働の形態	事業共催
実施主体	行政	市民経済部観光課	
	協働相手	半田市観光協会、(株) Mizkan Holdings、半田商工会議所他 (実行委員会形式)	
実施期間	平成 28 年度から	過去 3 年間 平均予算額	1, 7 6 4 千円
協働のゴール	半田運河の知名度向上、半田運河周辺地域の活性化		
ポイント	産官学民が一体となって力を合わせて実施できるイベント		
◆協働に至る経緯と背景			
半田商工会議所の事業として始まり、市や地域企業、自治区、市内の高校と地域で連携しながら、年々、規模を拡大しながら実施している。			
◆事業内容			
夏の夜に 2 日間開催されるアートイベント。黒板囲いの蔵に囲まれた道をやわらかく照らす「ヒカリノミチ」や、3,500 個以上のヒカリノ玉を運河に浮かべる「ミズノヒカリ」など、ヒカリのアートが半田運河を彩ります。			
◆役割分担			
行政	・ 実行委員会の参画		
協働相手	・ 実行委員会の参画 ・ イベント開催に関する PR やボランティア募集、各種業務の従事		
◆協働の成果			
市だけでなく地域企業も巻き込んでイベントを実施することで、イベントとしての広がりも出て認知度も上がってきており、2 日間で 2 万人を集めるビッグイベントに成長し、半田運河の PR にも繋がっている。			
			
◆協働の課題・展望			
来場者の増加に伴い、当日のごみの量も増加している。来場者へのおもてなしの体制を強化するためにも、地域との連携を深め、協力団体やボランティアの確保に努める。			

## 総合型地域スポーツクラブハウス

事業分野	学術・文化・スポーツ	協働の形態	委託
実施主体	行政	健康子ども部スポーツ課	
	協働相手	NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブ	
実施期間	平成18年度から	過去3年間 平均予算額	指定管理料19,173千円
協働のゴール	地域のスポーツ振興		
ポイント	様々なニーズに応じた活動ができる環境 地域の人々がいつでも気軽に交流できる環境		
◆協働に至る経緯と背景			
生涯スポーツの振興及び地域教育力の向上を図ることを目的として平成15年12月に建設された、愛称「NARAWA WING」で親しまれる総合型地域スポーツクラブハウスが平成18年度に指定管理者制度を導入した際、成岩中学校区において地域に根ざした活動を行ってきたNPO法人ソシオ成岩スポーツクラブに指定管理者として施設の管理運営を委託した。			
◆事業内容			
総合型地域スポーツクラブハウスは、高齢者をはじめとする地域の人々が集い、語り、くつろぐことができ、また、年間を通じて、地域の人々がスポーツを「する」「みる」「支える」ことを一体的に楽しめる施設である。地域の人々のニーズに応じた質の高い活動が日常にかつ、安心・安全に行えるよう、NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブは施設の管理とともに、様々な事業を展開している。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理料の支払い</li> <li>・施設の修繕</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の管理・小規模修繕</li> <li>・スポーツ活動をはじめとする様々な事業の実施</li> </ul>		
◆協働の成果			
<p>地域の人々に運営を支えられているNPO法人ソシオ成岩スポーツクラブは、当該施設を管理しながら有効に活用し、各年代に応じたスポーツプログラムやトップアスリートによるレベルの高い指導などの自主事業を積極的に行っており、半田市の目標である「生涯スポーツ社会の実現」を図るうえで重要な役割を果たしている。</p>			
			

#### ◆協働の課題・展望

自主事業の内容については、NPO 法人ソシオ成岩スポーツクラブに任せているところがあるため、今後については、スポーツ課とスポーツクラブの双方で地域のニーズを確認しながら事業内容を検討していく必要がある。

## 総合型地域スポーツクラブ連絡会議

事業分野	学術・文化・スポーツ	協働の形態	情報交換・意見交換
実施主体	行政	健康子ども部スポーツ課	
	協働相手	総合型地域スポーツクラブ5団体	
実施期間	平成23年度から	過去3年間 平均予算額	—
協働のゴール	生涯スポーツ社会の実現		
ポイント	市民のニーズに合わせた事業を実施するための情報交換会議 地域スポーツ振興のための情報交換会議		

### ◆協働に至る経緯と背景

平成12年9月に、文部科学省が「スポーツ振興基本計画」を策定し、計画期間の平成22年度までの10年間に、全国の各市町村において、少なくとも一つは総合型地域スポーツクラブを育成することとした。半田市では、平成8年3月から平成15年2月までに、市内5中学校区すべてにスポーツクラブを設立した。平成13年度には「半田広域スポーツセンター（はんだスポーツクラブ機構）」を設置し、スポーツクラブの立ち上げや事業企画・運営等に関する会議（理事会）を行ってきたが、育成期間が終了し、各総合型地域スポーツクラブが主体的に運営できるようになったことから半田広域スポーツセンターは解散し、平成23年度より総合型地域スポーツクラブと行政が情報交換をできる場として、連絡会議を開催し始めた。

### ◆事業内容

「だれでも」「いつでも」「どこでも」「いつまでも」気軽にスポーツに親しむことのできる社会すなわち「生涯スポーツ社会」の実現を目指すため、総合型地域スポーツクラブと連絡会議を開催し、意見や情報を交換し、研究を行っている。

### ◆役割分担

行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の開催、情報の提供</li> <li>・意見や情報の集約</li> </ul>
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の提供</li> </ul>

### ◆協働の成果

連絡会議の中で、地域の人々のニーズを研究しながら、事業を企画した。その結果、親子のスポーツ教室、高齢者スポーツ教室、アスリート育成事業など、子どもから高齢者まで、地域の誰もがそのレベルに応じて参加できる事業を実施することができた。






#### ◆協働の課題・展望


総合型地域スポーツクラブは「自主的」な運営が求められているが、運営をする人材である「地域」の人の確保が難しく、市内5中学校区にある総合型地域スポーツクラブのうち、一部のクラブで運営がうまく機能していないのが現状である。

誰もが身近に・気軽に活動できる環境に地域間で差が出ないように、連絡会議の中で運営人材の育成をサポートしていく必要がある。

## 南吉さんの蛍まつり

事業分野	学術・文化・スポーツ	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	新美南吉記念館	
	協働相手	NPO法人半田市観光協会、NPO法人ごんのふるさとネットワーク	
実施期間	平成25年度から	過去3年間 平均予算額	—
協働のゴール	蛍を子どもたちに身近に感じてもらう、地域の人に楽しんでもらう		
ポイント	毎年まつり中の2日間で約5,000匹の蛍が飛び交う 蛍に触る体験も出来る		
◆協働に至る経緯と背景			
<p>蛍を子どもたちに見せたいという地域の方々の思いを汲み、半田中央印刷の社員の有志が企画を立ち上げた。記念館敷地内にある谷地は、かつては毎年蛍が飛び交う場所であった。そこで蛍を飛ばすため記念館と半田中央印刷が協力をし、第1回南吉さんの蛍まつりを開催した。2回目の蛍まつりからは半田中央印刷が主催をNPO法人半田市観光協会に託し、NPO法人ごんのふるさとネットワーク、記念館が協働して実施をしている。</p>			
◆事業内容			
新美南吉記念館内外における蛍鑑賞、ナイトミュージアム、近隣の飲食ブース、ホテルおじさんのおはなし			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示室の無料開放</li> <li>・敷地の貸出</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場設営（半田市観光協会、ごんのふるさとネットワーク）</li> <li>・各団体との調整（半田市観光協会、ごんのふるさとネットワーク）</li> <li>・敷地内の安全管理（半田市観光協会、ごんのふるさとネットワーク）</li> </ul>		
◆協働の成果			
<p>蛍に詳しい方や、イベントを得意とする団体と協働することにより、より内容の濃いイベントを実施できている。</p>			
◆協働の課題・展望			
<p>行政・協働相手それぞれの強みを活かして、イベント内容や広報を強化し、さらにたくさんの方に集ってもらい、楽しんでもらえるようなイベントにしたい。</p>			

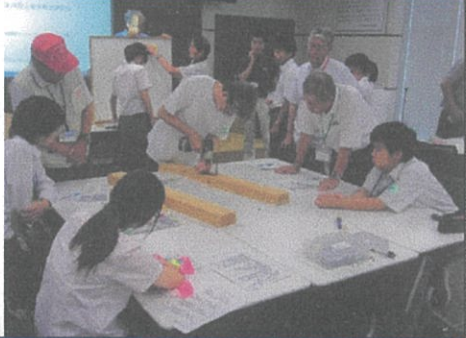
## 水辺クリーン・アップ大作戦

事業分野	環境保全	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	企画部市民協働課	
	協働相手	半田市民憲章実践協議会、建設会社、市民ボランティアなど	
実施期間	平成 15 年度から	過去 3 年間 平均予算額	—
協働のゴール	市内における水辺の環境が綺麗に保たれていること。		
ポイント	市民が気軽に参加できるボランティア活動であり、また、清掃イベントも継続的に無理なく実施できる。		
◆協働に至る経緯と背景			
この事業は、平成 15 年度に本市が知多地区の 4 市 5 町に呼びかけて実施した「知多半島水辺のクリーン・アップ大作戦」が始まりである。現在は、半田市民憲章の「美しいまちづくり」を実践する活動として、半田市民憲章実践協議会の主導のもとで継続的に取り組まれている。			
◆事業内容			
軍手とごみ袋があれば気軽に参加できる環境美化活動として、年 1 回、海や河川周辺の清掃を行っている。 市報やちらしで参加者を募集し、毎年約 800 人の方が参加している。令和元年度には、約 4670 キロのごみが集められた。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市報で参加者を募集</li> <li>・水辺を管轄する港湾機関との調整</li> <li>・集まったごみの処分</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちらしによる参加者の募集（市民憲章）</li> <li>・重機を使用して粗大ごみの収集・搬出（建設会社）</li> <li>・清掃活動（市民）</li> </ul>		
◆協働の成果			
市民憲章実践協議会が市民や地域、企業など、幅広い方への参加を呼びかけ、毎年、約 800 人の方が清掃活動に参加している。清掃活動では、多くのごみを回収できており、市内の環境美化に大きく貢献している。			
◆協働の課題・展望			
市内全域における水辺を綺麗にするため、今まで実施してきた半田中央ふ頭や亀崎海浜緑地、乙川稗田川、半田運河以外の場所での実施を検討していく必要がある。			


## かいどり大作戦

事業分野	環境保全	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	市民経済部経済課	
	協働相手	有脇の農地・水・緑を守る会、有脇小学校、有脇1区	
実施期間	平成19年から（協働は平成25年度から）	過去3年間 平均予算額	補助金 50千円
協働のゴール	生態系保護、ため池の整備や周辺の美化		
ポイント	有脇小学校がユネスコスクールの活動の一環として14年間続いているため、地域の行事として定着している。		
◆協働に至る経緯と背景			
多面的機能直接支払交付金事業により、地域の共同活動へ補助金を活用し始めたこと。			
◆事業内容			
地域内の4つのため池で、毎年1か所ずつ順番に、ため池の水を抜き、池に生息する外来魚の駆除と池の清掃を行っている。小学3～6年生の児童たちがため池に入り、生息する魚等の生態調査を行い、1・2年生は捕獲された生物の観察をする。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・池の中での魚の捕獲及び指導</li> <li>・来賓&amp;報道&amp;外来者の対応及び会場全般の目配り、気配り</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前準備&amp;当日運営全般</li> </ul>		
◆協働の成果			
池の水を抜き、外来種の生物を駆除することにより、本来の生態系を守ることが出来た。また、池に沈んだゴミを片付け、池周辺の清掃が施されることにより、周辺環境美化及び池の長寿命化が図られるとともに、地域住民と小学校との交流が深まった。			
			
◆協働の課題・展望			
協働相手の高齢化			


## 家具の転倒防止器具取付

事業分野	災害救援	協働の形態	委託
実施主体	行政	総務部防災交通課	
	協働相手	半田災害支援ボランティアコーディネーターの会	
実施期間	平成18年度から	過去3年間 平均予算額	委託料412千円
協働のゴール	家具転倒防止器具設置による、被害の軽減		
ポイント	地域で活動するボランティア団体が取付を行う、地域に根差した事業。講習会を通じて、取付対象世帯以外にも、器具取付の普及啓発を行っている。		
◆協働に至る経緯と背景			
半田商工会議所が実施していた事業を行政が引き継ぐ形で始まり、ボランティア団体に取付事業を委託することで、知識と技術を備えた団体による取付事業ができている。			
◆事業内容			
行政が申込を受け付け、その情報をもとに、ボランティア団体へ取付依頼をする。依頼を受けた団体は、申込者宅へ伺い、設置場所の調整および取付を行う。 取付対象世帯以外にも器具取付の普及啓発をするため、防災訓練や防災リーダー養成講座にて器具取付講習会を実施している。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 申し込みの受付、団体への依頼</li> <li>・ 委託料の支払い、取付実績の確認</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 申込者宅への器具取付</li> <li>・ 器具取付講習会の実施</li> </ul>		
◆協働の成果			
ボランティア団体へ委託することで、地域に根差した事業実施ができた。また、器具取付講習会を通じ、取付対象世帯以外の方にも、家具転倒防止の重要性や有効的な器具の取付方、器具の安全な取り扱いなどを周知できた。			
◆協働の課題・展望			
委託団体の構成員の人手不足や高齢化が進んでいるため、新たな人材の育成やサポート体制の整備が必要である。			

## 防災キャンプ ～親子参加型一泊二日避難所体験講座～

事業分野	災害救援	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	総務部防災交通課、教育部学校教育課、半田消防署、半田市消防団	
	協働相手	開催小学校自治区（自主防災会）、半田防災リーダー会、半田災害支援ボランティアコーディネーターの会、半田市赤十字奉仕団、PTA	
実施期間	平成 24 年度から	過去 3 年間 平均予算額	3 7 千円
協働のゴール	家庭全体での防災力向上		
ポイント	実際に避難所となる体育館で生活・宿泊することで、避難所での生活イメージをし、家庭での備えにつなげることができる。		
◆協働に至る経緯と背景			
小学校に通う児童とその家族が対象となるため、各講座を防災協力団体に依頼することで、各団体の得意とする分野の講座が実施できるとともに、団体の活動の幅を広げることができると考えたため。			
◆事業内容			
実際に避難所となる学校の体育館にて、備蓄食糧の喫食や避難所運営委員会の立ち上げ、宿泊などを行うことで、実際の避難所生活を体験できる。 また、親子で避難所生活体験をすることで、避難する際の持出品や災害時の家族の集合場所などを見直すきっかけとなり、家庭全体の防災力向上につながる。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の募集</li> <li>・講座スケジュールの組み立て、設営、司会進行</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災講座（防災紙芝居、災害時のトイレの工夫 など）の実施</li> <li>・炊き出しの実施</li> </ul>		
◆協働の成果			
<p>複数の防災関係団体の参加及び講座があることで、各団体の得意とする分野の講座が実施でき、満足度の高い講座が実施できている。 また、自治区や小学校、PTA と防災関係団体がつながる場になることで、新たな防災啓発の場づくりにつながっている。</p>			
◆協働の課題・展望			
「親子」での参加をより活かすために、親子でできる講座の幅を増やしていきたい。			

## 半田市防災リーダー養成講座 蔵のまち防災アカデミー

事業分野	災害救援	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	総務部防災交通課、半田消防署、半田市消防団（女性）	
	協働相手	半田市社会福祉協議会、半田災害支援ボランティアコーディネーターの会、半田防災リーダー会、半田市赤十字奉仕団、自治区（自主防災会）	
実施期間	平成 20 年度から	過去 3 年間 平均予算額	講師料 20 千円 経費 58 千円
協働のゴール	地域防災の担い手となる人材の育成、知識・技術の向上		
ポイント	行政及び複数の防災関係団体を講師に、防災の基礎的な講座から防災訓練立案のような応用講座まで幅広い防災知識の取得ができる。		
◆協働に至る経緯と背景			
地域防災の担い手となる人材の育成には、幅広い防災知識・技術の取得が必要であるため、得意分野の違う複数の防災関係団体に講師を依頼した。			
◆事業内容			
防災リーダーに必要な知識・技術を身に着けるため、2日間にわたり、講座を開催している。講座内容は、可搬式ポンプの操作訓練や防災食の炊き出し体験、HUG（避難所運営ゲーム）、応急手当・搬送法、防災訓練立案など、多岐にわたる。2日間の講習を受講した参加者を半田市防災リーダー「蔵のまち防人」に認定する。			
◆役割分担			
行政	・参加者の募集、講座内容の検討、当日の司会進行		
協働相手	・講座内容の検討・実施、参加者の推薦		
◆協働の成果			
<p>複数の防災関係団体が講師となることで、各団体の得意とする分野の講座が実施でき、幅広い防災知識・技術の取得や、満足度の高い講座が実施できている。また、本講座で防災リーダーとなった人材が、各団体の新たな構成員となる場合もあり、さらなる知識・技術技術の向上に努めている。</p>			
			
◆協働の課題・展望			
本講座の参加者の半数近くが高校生・大学生の若い世代であるため、将来の防災リーダーとしての活躍だけでなく、今から地域防災に携わることのできる仕組みや機会を増やしていきたい。			


## 地震津波避難訓練

事業分野	災害救援	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	健康子ども部幼児保育課（乙川保育園）	
	協働相手	① 安藤製作所株式会社 ②株式会社LIXIL半田工場 ② 乙川公民館 乙川1区	
実施期間	① 平成23年から ② 平成27年から ③ 平成27年から（非常用品備蓄保管）	過去3年間 平均予算額	—
協働のゴール	大規模災害時に園児を安全に避難誘導する。		
ポイント	避難車の進行の補助・手助け 幼児の避難の誘導・安全の確保の手助け		
◆協働に至る経緯と背景			
東日本大震災を契機に保育園における震災、津波に対する安全避難対策を検討し、少しでも早く安全に園児を避難誘導させるため、近隣企業へ、力添えの検討、協力をお願いした。			
◆事業内容			
年2回（5月・10月）の合同避難訓練の実施。大規模な地震が発生し、津波が来ることを想定し、企業の方々が保育園に駆け付け、乳児クラスが乗る避難車の進行の手助けや幼児クラスの誘導等、迅速に避難するための手助けをお願いしている。			
◆役割分担			
行政	・ 合同避難訓練の計画、日程調整		
協働相手	・ 避難の誘導・手伝い		
◆協働の成果			
<p>坂道で避難車を引っ張る、歩みが進まない子の手を引く、周囲の安全確認を多くの大人の目で行うことで、避難にかかる時間の短縮につながっている。</p> <p>訓練を繰り返すことで、想定外の災害が発生したときの連携がスムーズとなる。</p>			
◆協働の課題・展望			
想定外の災害に対応するため、避難の方法、状況設定を変えながら、進める必要がある。			






## 青色防犯パトロール隊

事業分野	地域安全	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	総務部防災交通課	
	協働相手	青色防犯パトロール団体、中日新聞販売店、(株)フューチャーイン	
実施期間	平成17年度から	過去3年間 平均予算額	58千円
協働のゴール	犯罪のない安心・安全なまちづくり		
ポイント	地域の安全確保のために、活躍できる防犯ボランティア活動。		
◆協働に至る経緯と背景			
平成14年・15年に全国の刑法犯認知件数が戦後最多となり、国土交通省及び警察庁から認定を受けた車両については、回転灯の装備が道路運送車両法の規制の対象外となったことから、半田市でも自主防犯団体による青色防犯パトロール活動が始まった。			
◆事業内容			
青色防犯パトロール車を使用した防犯パトロール活動として、平成17年度から実施している。現在、半田市内の青色防犯パトロール団体は22団体となっており、各地域で青色防犯パトロール車を使用した見守り活動が実施されている。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青色防犯パトロール講習会の開催</li> <li>・パトロール資材の提供</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青色防犯パトロール車を使用した地域の見守り活動</li> </ul>		
◆協働の成果			
<p>地域の方が青色回転灯搭載車を使用して地域をパトロールすることは、地域の方に安心感を与えるだけでなく、地域の連帯感の醸成につながる。また、よく知っている道を使用することで、効率よくパトロール活動を行うことができる。</p>			
◆協働の課題・展望			
青色防犯パトロール隊員数が減少しているため、若い世代を含めた隊員の確保が課題となっている。			


## 国際交流活動

事業分野	国際協力	協働の形態	補助
実施主体	行政	企画部秘書課	
	協働相手	半田国際交流協会	
実施期間	平成元年度から	過去3年間 平均予算額	補助金4,300千円
協働のゴール	市民の国際理解の促進と外国籍市民の日本文化や生活習慣の理解促進による多文化共生社会の実現。		
ポイント	外国籍市民と地域住民との相互交流・相互理解		
◆協働に至る経緯と背景			
<p>昭和55年にアメリカ・ミッドランド市からの姉妹都市提携提案を機に、半田市姉妹都市市民委員会（半田国際交流協会の前身）が設立されました。その後、市民レベルでの交流を行いながら、他の姉妹友好都市であるポートマッコリー・徐州市とも交流を行っています。設立当時、まだ市民が気軽に海外旅行に出かけられなかった時期から、日本語教室や国際交流イベントなどの活動を通して、市民との交流や国際理解の促進を図っています。</p>			
◆事業内容			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍市民のための日本語教室</li> <li>・こんにちわーど（国際交流・多文化共生イベント）の開催</li> <li>・各姉妹友好都市との交流 等</li> </ul>			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金の支出</li> <li>・活動場所の提供</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の実施</li> </ul>		
◆協働の成果			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹友好都市との交流を通じて、市民の国際理解の促進に貢献している。</li> <li>・日本語教室や国際交流イベントを通して、外国籍市民と地域住民との相互交流・相互理解が促進されている。</li> </ul>			
◆協働の課題・展望			
<p>姉妹友好都市関係については、継続的に事業を行っていく予定である。 地域の外国籍市民への生活支援の充実や地域住民との相互理解が求められている。</p>			

## 保育園遊具塗装

事業分野	子どもの健全育成	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	健康子ども部幼児保育課	
	協働相手	株式会社沢田工務店	
実施期間	平成 26 年度から	過去 3 年間 平均予算額	—
協働のゴール	園児たちが気持ちよく園庭で遊ぶことができる環境づくり		
ポイント	企業による地域貢献活動		
◆協働に至る経緯と背景			
企業の地域貢献活動の取り組みの一環として、保育園の屋外遊具塗装をモデル的に実施			
◆事業内容			
遊具の塗膜の研磨作業及び塗装作業を、(株)沢田工務店社員及び関連事業所の塗装職人により実施している。また、遊具塗装を実施した園において、「ふれあい会（お礼の会）」を開催し、(株)沢田工務店のマスコットキャラクター「ピース君」をお迎えし、園児たちが塗装作業に対する感謝の気持ちを伝えている。			
◆役割分担			
行政	・ 遊具塗装対象園の選定		
協働相手	・ 塗膜の研磨作業（(株)沢田工務店社員及び関連事業所の塗装職人） ・ 塗装作業（(株)沢田工務店社員及び関連事業所の塗装職人）		
◆協働の成果			
子どもたちは遊びをとおして体力や身体能力を高めていくため、塗装作業により色鮮やかになった遊具は、子どもたちの五感を刺激し、発想力や集中力などさまざまな感覚を養っていってくれる。			
◆協働の課題・展望			
遊具修繕の予算には限りがあり、安全確保上必要な修繕以上のことはできていない状況である。子どもたちの健全な発達のため、引き続き地域貢献活動による遊具塗装をお願いしたい。			

## はんだこそだてフェスタ

事業分野	子どもの健全育成	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	健康子ども部子育て支援課（子育て支援センター）	
	協働相手	はんだこそだてフェスタ実行委員会	
実施期間	平成 26 年度から	過去 3 年間 平均予算額	—
協働のゴール	地域における子育て支援意識の醸成		
ポイント	子育て中の親子と子育てを支援する市民とがつながり、みんなが楽しめるイベント		
◆協働に至る経緯と背景			
<p>市民協働推進計画の策定にあたり、「これから取り組みたい協働事業」として行政から提案し、平成 25 年度に「はんだっこフェスティバル」として開催。平成 26 年度からは「はんだこそだてフェスタ」と名称変更し、現在に至る。</p>			
◆事業内容			
<p>市内で活動する子育て支援団体のうち、「はんだこそだてフェスタ」の趣旨に賛同した団体が集まり、実行委員会形式で、企画、運営している。イベントの主な対象を子育て中の親子とし、それぞれの団体が得意とする親子で楽しめる催しの実施、団体の活動紹介、おやつやお弁当の販売などを内容として行っている。</p>			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会事務局として、他機関との調整及び広報。</li> <li>・会場の確保、提供。</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの企画、運営。</li> <li>・各団体が実施する催しの準備、設営、実施。</li> </ul>		
◆協働の成果			
<p>行政だけではできないことや一つの団体だけではできないことが、それぞれが主体として参加し、得意とすることを生かすことで、無理なく楽しくできている。それにより、「また来年もやりたいね」という合意形成が得られ、事業の継続につながっている。</p>			
◆協働の課題・展望			
<p>行政と協働相手とはそれぞれが主体として、対等で信頼できる関係が構築できていることをベースとして、事業に取り組んでいきたい。</p>			


## 日本福祉大学無料塾

事業分野	子どもの健全育成	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	健康子ども部子育て支援課	
	協働相手	日本福祉大学 アンビシャスネットワーク	
実施期間	平成 24 年 1 月から 平成 28 年 6 月まで	過去 3 年間 平均予算額	—
協働のゴール	子どもの貧困の連鎖の防止		
ポイント	日本福祉大学の学生が中心となり、貧困による教育格差の是正を目的として主体的に活動を行った。		
◆協働に至る経緯と背景			
日本福祉大学が学生のボランティア活動として半田市内のひとり親家庭等の中学生を対象とした学習支援事業を実施するにあたり、会場手配、対象世帯への周知等に関して半田市への協力要請があったことが契機である。			
◆事業内容			
日本福祉大学の学生が生活保護受給世帯及び児童扶養手当受給世帯の中学生に対してマンツーマンで学習の支援等を行う事業。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施会場となる施設の予約及び使用料の減免。</li> <li>・事業周知（対象者に対して案内文の送付）</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の支援等の実施。</li> </ul>		
◆協働の成果			
学生が中心となって活動の企画・運営を行ったことにより、スタッフとして参加する学生達の事業への対するモチベーションも高く、課題の共有及び改善策の検討を主体的に行う様子が見られた。			
◆協働の課題・展望			
<p>学生のサークル活動では、学生の卒業等により構成員が毎年入れ替わってしまうことから、継続的に事業が実施されるような仕組みが必要であった。</p> <p>このため、卒業を迎える大学 4 年生の学生が代表となり、法人を設立し、市から委託を受けて、事業を実施することとなった（平成 28 年 7 月から事業開始。）。</p>			

## 子ども食堂

事業分野	子どもの健全育成	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	健康子ども部子育て支援課	
	協働相手	子ども食堂実施6団体、半田市社会福祉協議会、半田南ロータリークラブ	
実施期間	平成30年度から	過去3年間 平均予算額	—
協働のゴール	子ども食堂を地域に定着させ、広げていくこと。		
ポイント	単に食事を提供するだけでなく、学習支援や子どもたちの交流の場など子どもが安心して集うことができる居場所として地域に広がっている。		
◆協働に至る経緯と背景			
平成30年度新たに子ども食堂を実施する団体が増える中、運営にあたる課題等を共有し、互いに相談や協力し合える関係性を構築することを目的とし、行政と関係機関との情報交換・交流の場として意見交換会等を開催することとした。			
◆事業内容			
経済的な事情などで家庭において十分な食事がとれない子どもに無料又は低額で食事を提供する。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動情報を把握及び関係機関への周知</li> <li>・地元農家等からの食材提供に関する仲介</li> <li>・意見交換会の実施</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども食堂の開設、運営（子ども食堂実施団体）</li> <li>・フードバンクの設立（半田市社会福祉協議会）</li> <li>・継続的な経済支援（半田南ロータリークラブ）</li> </ul>		
◆協働の成果			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な活動が実施できており、意見交換会等で運営上の課題共有を行うなかで「はんだ子ども食堂ネットワーク」が設立された。</li> <li>・食品の寄付について、半田南ロータリークラブを始め、個人や市内企業からの支援が増加している。また、半田市社会福祉協議会にてフードドライブを実施し、コロナ禍で生活困窮者や支援団体に食糧支援を行っている。</li> </ul>			
◆協働の課題・展望			
今度も、活動を継続的に実施するため、行政が周知や食材提供の仲介、団体間の意見交換会を開催し、地域や関係機関と連携に取り組んでいく。また、地域の居場所としての活用を促進する。			

## はんだ子育てネットサロン

事業分野	子どもの健全育成	協働の形態	情報交換・意見交換
実施主体	行政	健康子ども部子育て支援課（子育て支援センター）	
	協働相手	子育て支援団体	
実施期間	平成19年度から	過去3年間 平均予算額	—
協働のゴール	子育て支援ネットワークの構築		
ポイント	子育て支援に関わる人、関心のある人なら、だれでも気軽に参加 子育て支援をキーワードにつながる		
◆協働に至る経緯と背景			
愛知県の子育てネットワーク養成講座受講者が中心となって、市内の子育て支援団体を対象に情報交換・意見交換の場所が作られた。平成19年度から子育て支援センターへ移管し、現在に至る。			
◆事業内容			
地域で子育て支援活動を行っている団体や個人が市内全域より集まり、お互いの活動情報や意見を交換している。団体や個人、大学などをつなぐ場所としても機能している。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンのホスト役</li> <li>・広報および場所の提供</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンの参加者、ファシリテーター役</li> <li>・情報の提供、発言と傾聴</li> </ul>		
◆協働の成果			
<p>子育てボランティア「はんだっこサポーター」に、ファシリテーター役を任せ、行政はホスト役を担うことで、気軽に集まることができ、誰もが安心して意見を言うことができる場所となっている。ここでのつながりが地域ごとのネットワーク作りにつながっている。</p>			
◆協働の課題・展望			
地域ごとのネットワーク構築が進むにつれ、差別化が図りにくくなってきているものの、参加メンバーからは、「参加する人がいる限り、続けてほしい」という声がある。			

## 彼岸花の球根植え

事業分野	子どもの健全育成	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	健康子ども部幼児保育課（岩滑北保育園）	
	協働相手	矢勝川の彼岸花を守る会（「環境を守る会」から改称）	
実施期間	平成 26 年度から	過去 3 年間 平均予算額	—
協働のゴール	岩滑地区（矢勝川付近）の自然環境保全		
ポイント	幼児が無理なく参加でき、自然環境に関心を持つことができる事業		
◆協働に至る経緯と背景			
矢勝川の彼岸花を守る会からの誘いがあり、保育園年長児が参加し、現在に至る。			
◆事業内容			
地域の方々に教わりながら、秋の開花を楽しみに毎年彼岸花の球根植えをしている。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日程調整</li> <li>・ 作業に必要な軍手等の準備</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 球根の準備</li> <li>・ 球根植えの指導と援助</li> </ul>		
◆協働の成果			
<p>地域の方々に教えてもらい球根と一緒に植えることで、関心を持つようになってきた。彼岸花が咲く時期になると、自分達が球根を植えた場所を気にする様子や、花の開花を心待ちにする姿がうかがえる。</p>			
◆協働の課題・展望			
<p>毎年続けていくことで、地域の自然の素晴らしさを感じ、子ども達に関心を持ち続けていくことを願っている。</p> <p>地域の方々がやっている交流事業に携わることで、地域で育つ喜びを感じてほしい。</p>			

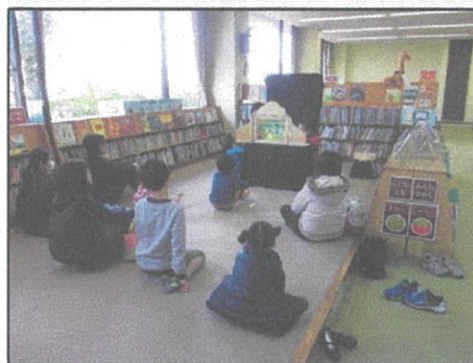


## コミュニティ・スクール推進

事業分野	子どもの健全育成	協働の形態	補助
実施主体	行政	学校教育課	
	協働相手	半田市学校運営協議会（地域住民、学校関係者等）	
実施期間	平成31年度から	過去3年間 平均予算額	補助金 1,000千円
協働のゴール	地域と協働でより良い学校づくりを目指し、持続可能な仕組みを構築する。		
ポイント	地域と学校が互いにパートナーとして「連携・協働」を行い、教育活動の活性化を図る。		
◆協働に至る経緯と背景			
コミュニティ・スクール制度の導入に伴い、地域と協働で行うことにより、より良い学校づくりに対する企画・提案がなされることから、その実現のために必要な事業費の補助として創設した。			
◆事業内容			
保護者や地域住民と学校による共同提案からなる学校支援活動。 （例：除草作業などの環境整備事業、出前講座などの学習支援事業、登下校の見守りなどの防犯安全事業）			
◆役割分担			
行政	・教育委員会が指定する応募期間に学校運営協議会に対し推進事業を募集 （選考会にて助成校を決定）		
協働相手	・地域と学校の連携による学校支援活動 （例：トイレ清掃、樹木伐採、地域を支える組織作り等）		
◆協働の成果			
地域住民の更なる制度の浸透及び当事者意識を持った視点での学校運営及び教育活動に対する活性化を図ることに繋がった。			
◆協働の課題・展望			
学校と地域、行政における共通理解と活動の推進のための人材発掘が課題である。			

## 読み聞かせ会・おたのしみ会

事業分野	子どもの健全育成	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	教育部 図書館	
	協働相手	【ボランティアグループ】きりんの会、乙川小学校PTAひまわりの会、乙川東小学校PTA読書クラブ	
実施期間	昭和60年度から	過去3年間 平均予算額	48千円
協働のゴール	子どもの読書活動推進		
ポイント	読み聞かせを通して子どもたちが本に触れる機会を増やし、豊かな感性を育んでもらうことを目的とした活動。		
◆協働に至る経緯と背景			
昭和60年4月、図書館の読み聞かせボランティアグループとして「きりんの会」が活動を開始。その後、亀崎図書館の読み聞かせ会・おたのしみ会に「乙川小学校PTAひまわりの会」と「乙川東小学校PTA読書クラブ」が参加。			
◆事業内容			
読み聞かせ会…絵本、紙芝居等の読み聞かせを行う。(毎週土曜日) おたのしみ会…パネルシアター、大型紙芝居等の上演をする。(年2回)			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場設営、広報</li> <li>・読み聞かせ(本館・亀崎の読み聞かせ会 月1回)</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ(読み聞かせ会 本館 月3回、亀崎 月1~2回、おたのしみ会)</li> </ul>		
◆協働の成果			
令和元年度実績			
読み聞かせ会…本館 43回実施、参加者 805名 亀崎 45回実施、参加者 488名			
おたのしみ会…本館 参加者 80名 亀崎 参加者 34名			
※読み聞かせ会(本館)の様子			
◆協働の課題・展望			
継続事業であることから、安定したボランティア人員の確保が課題			



## はんだふれあい産業まつり

事業分野	経済活動	協働の形態	事業共催
実施主体	行政	市民経済部経済課	
	協働相手	半田商工会議所、半田商工会議所青年部、JFEスチール、あいち知多農協、半田市酪農組合、成岩第三区	
実施期間	平成9年度から（協働は平成15年度から）	過去3年間 平均予算額	補助金 5,000千円
協働のゴール	地域とのふれあい、地産地消の促進及び産業振興		
ポイント	地元産業を広くPRするイベント		
◆協働に至る経緯と背景			
JFEスチールからの提案により、「はんだの産業まつり」と「ふれあいまつり in 川鉄」を平成15年度から統合し、「はんだふれあい産業まつり」とした。			
◆事業内容			
JFEスチール会場、半田運動公園会場にて「はんだふれあい産業まつり」を開催している。フリーマーケットや知多牛の試食会、ごん鍋のふるまい等、各種イベントを実施し、地元農業、工業、商業者の活動をPRし、半田の産業を市民の方をはじめ、市外の方にも紹介している。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はんだふれあい産業まつり実行委員会への補助</li> <li>・出店者の募集</li> <li>・事前準備&amp;当日運営全般</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの企画</li> <li>・事前準備&amp;当日運営全般</li> </ul>		
◆協働の成果			
<p>地元の商業・工業・農業を広くPRするイベントを開催することにより、地産地消が促進されるとともに、農商工の連携が図られる。</p>			
◆協働の課題・展望			
協働団体からの画期的な企画を取り込むとともに、地元商業、工業、農業の各分野からの幅広い団体に積極的に参加を呼び掛け、地元の産業活動を重点的にPRしたい。			